

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	盛岡城跡石垣修復工事・変位測量委託事務業務			事業コード	0919
所属コード	204500	課等名	歴史文化課	係名	
課長名	袖上 寛	担当者名	佐々木亮二	内線番号	7355
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	共に生き未来を創る教育・文化	コード	4
	施策	歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用	コード	5
	基本事業	歴史的文化遺産の保護と活用	コード	1
予算費目名	一般会計 10 款 6 項 1 目 盛岡城跡保存整備事業 (004-02)			
特記事項	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	昭和 59 年度
根拠法令等	文化財保護法			

(2) 事務事業の概要

国指定史跡盛岡城跡の石垣の変位調査を継続的に実施し、必要箇所については修復工事を実施する。また、史跡及び都市公園としての機能を勘案しながら、保存計画の策定を進め、案内表示や説明板を整備する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

築城以来、約 400 年を経た石垣の損傷が著しく、積み直しの必要が生じたため、国及び県の指導の下、昭和 59 年度から修復工事に着手している。

併せて昭和 60 年度から平成 10 年度まで石垣移動量調査を実施し、平成 11 年度からは石垣変位調査を継続している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

地震等により石垣の損傷が進行し、崩落の危険度が高まっている。特に、平成 23 年 3 月及び 4 月の東北地方太平洋沖地震及びその余震により、間詰石の落下、孕みの増大等が確認され、早急な保護措置が急務となっている。

その反面、石垣修復工事等の予算措置が難しく、工事に着手できないのが実情である。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が、何が対象か）

国指定史跡盛岡城跡

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 石垣面積	m ²	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
B						
C						

（3）24 年度に実施した主な活動・手順

石垣変位調査（業務委託）

石垣基礎調査（業務委託）

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 石垣修復工事面積	m ²	0	0	0	0	805
B 石垣変位調査地区	地区	8	8	8	8	8
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

石垣崩落危険の除去

石垣の保護保全

「お城を中心としたまちづくり」の基幹となる史跡盛岡城跡の保存活用

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 石垣修復率 （修復完了累積面積/石垣総面積）	☒ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	%	34.4	34.4	34.4	34.4	42.5
B 石垣変位調査箇所設置率 （変位調査設置地点数/必要箇所）	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	%	100	100	100	100	100
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	880	1,000	1,000	983
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	886	1,046	1,088	1,092
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	1,766	2,046	2,088	2,075
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	600	600	600	600
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	2,400	2,400	2,400	2,400
計	トータルコスト A+B	千円	4,166	4,446	4,488	4,488
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

国指定史跡の保存整備事業である。

② 市の関与の妥当性

史跡所有者及び管理者は盛岡市である。

③ 対象の妥当性

史跡そのものが対象であり，妥当である。

④ 廃止・休止の影響

石垣崩落の危険度が高まる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

先端技術・機器の導入により，より精緻かつ効率的な調査が可能となる。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

国民全体が受益対象であり，特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

先端技術・機器の導入により，より精緻かつ効率的な調査が可能となる。

併せて，人件費の削減にも繋がる。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）改革改善の方向性

先端技術・機器の導入により、より精緻かつ正確な変位調査及び基礎調査を行い、適正な事業計画を立案する。

（2）改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

石垣の損傷や孕みが著しく進行しており、早急な対応が必要である。

盛岡城跡は、お城を中心としたまちづくりの基幹となるもので、石垣の損傷は、崩落の危険性を有し、史跡の保護・安全管理、観光・景観面でもマイナス効果になる。

公園管理を行う公園みどり課との連携が不可欠である。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

（2）全体総括・今後の改革改善の内容

石垣の変位調査、基礎調査支援業務を予定どおり実施した。

盛岡城跡は、盛岡のまちづくりの原点であるとともに、次世代に引き継ぐ歴史的遺産として、石垣等の調査を継続するとともに、適切な保存管理を行っていく。